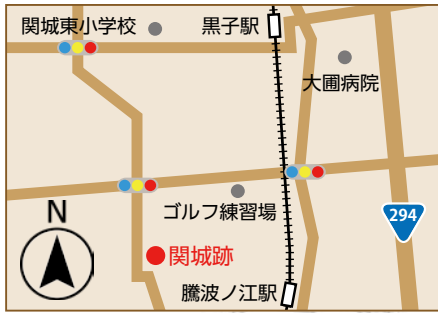




問 文化課 ☎ 22 - 0183

日本を二分した南北朝時代の混乱を
今に伝える国指定史跡

関城跡

国指定史跡として84年

関城跡（関館）は、昭和9年5月1日に国指定

史跡となりました。

関城町の町名の由来にもなった「関城」は、かつてこの地にあった「大宝沼」を臨む台地の突端部に立地していました。東・南・西の三方が沼に囲まれ、北の台地上には

混乱の南北朝時代

土塁や沼に通じる堀割りが巡らされた堅城でした。築城時期については、鎌倉時代と言われているますが、定かではありません。

南

南北朝時代は、鎌倉時代が終わりに足利尊氏による新たな武家政権のもとに幕府を開こうとした時、京都（北朝）と吉野（南朝）にそれぞれ天皇が朝廷を開いてしまふという混乱した時代でした。年号もそれぞれに制定され、1336年には、北朝が建武3年、南朝が延元元年を使うという有り様でした。



関公の墓と伝えられている宝篋印塔
墓の南側には「関城之碑」（明治3年建立）があります。

関宗祐の抵抗と 関城の陥落

後

醍醐天皇の重臣・北畠親房は、東国にわたり常陸国内で転戦しながら1341年（興国2年、暦応4年）に小田城を後にして関城に入城しました。親房を迎え入れた関城の城主・関宗祐は、大宝城と連携して北朝方との戦いに臨みました。また、伊佐城の城主・伊佐太郎、同族の伊達行朝も呼応して北朝方の高師冬軍と激闘を展開しました。

しかし、1343年（興国4年、康永2年）11月11日、関城は北朝方の包囲と激闘に屈し、ついに落城の憂いに遭いました。関宗祐、宗政父子は戦死。親房は吉野に脱出しました。また、親房は戦



墓前祭 関宗祐父子をたたえ、落城の日を命日として毎年11月11日に関公の墓の前で墓前祭が行われています。



坑道跡 興国4年(1343年)の合戦の際、關城戦を打破しようとトンネルを掘って城内に入り込む戦法がとられたと言われています。

いの最中、南朝の正統性を唱え続け、ここ関城で『神皇正統記』を修訂・増補し、完成させました。この後、戦いは1392年に終結し、南北朝合一を迎えました。

今年は、関城が陥落して675年を迎えます。地元では、関城の歴史とその保存顕彰に尽力した中村宝水（本名寿三郎）氏の功績を忘れることなく今日まで多くの資料が伝え残されています。